

医学部・医学系研究科

I	研究水準	研究 2-2
II	質の向上度	研究 2-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、教員の平成19年度英文学術雑誌発表は合計1,223件(1名当たり2.56件)、うち86%が査読付学術雑誌での発表である。年度別に見ると毎年ほぼ同程度の数の論文発表、学会発表が行われている。平成16年度から平成19年度のインパクトファクター(IF)10を超える論文は117編である。研究成果の特許取得は年々増加傾向にあり、平成16年度から平成19年度は合計13件である。受託研究は平成16年度以降、毎年200件を超える。また、寄附講座も22件から38件に増加した。海外の大学との学術交流協定も活発で、カリフォルニア大学サンフランシスコ校のリトリートに大学院学生を派遣している。研究資金の獲得状況については、平成17年度以降、科学研究費補助金の取得額は増加を続け、平成19年度には50億円を超えた。さらにCOE研究費、これ以外の競争的外部資金を加えた競争的資金は外部資金全体の50%を超え、かつ毎年増加傾向にある。共同研究資金や受託研究資金も増加している。研究資金総額は、平成18年度に110億円を突破し、平成19年度もさらに増加している。研究成果の発信に努め、平成16年度から平成19年度の新聞報道は延べ166件にのぼることなどは、優れた成果である。

以上の点について、医学部・医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、医学部・医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、卓越した研究としては、例えば、生体内の物質輸送に重要な役割を果たしている分子モーターであるキネシンの解析、さらに分子モーターの一つが体の左右非対称性を決定する機構を明らかにした研究がある。また、認知記憶の形成と想起が脳皮質における大域的神経結合と局所回路によってどのように生み出されるかについて新しい理論的枠組みが提案されている。生体防御に重要な役割を担うI

型インターフェロンの発現誘導システムの研究も特筆される。臨床医学では、メタボリック症候群と脂肪細胞から分泌される生理活性物質アディポネクチンの関係に関する一連の研究等が重要である。社会、経済、文化面では、若年者の脳卒中の原因となる脳動静脈奇形に対する定位放射線手術の効果を 500 例の大規模なコホートとして長期間観察し出血リスクを解析した研究は、治療のガイドラインを書き換える情報として高く評価され、社会への影響が大きい研究である。また、これらの業績に対し、日本学士院賞、朝日賞等の国内外の著名な賞の受賞数が 50 件を超えたことは、優れた成果である。

以上の点について、医学部・医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、医学部・医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は 2 件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。